

地元住民によるスーパーマーケット「キラリやまの」の挫折

小林正和¹

要旨

平成 18 年 8 月に広島県福山市山野町地区にある住民主体のスーパーマーケット「キラリやまの」が開店したが、平成 29 年 10 月に閉店となった。地域住民の高齢化、過疎化が進む中、J A スーパーがなくなるというきっかけから住民主体のスーパーマーケットができたが、何故今回閉店に至ったのだろうか。開店時から閉店までの運営状況を見ることで、その理由が分かるのではないだろうか。

今回、代表である門田氏にインタビューをした結果、閉店に至った理由は、販売員の高齢化、後継者不足、地域の人口減少による売上減少等の多くの要因が挙げられる。

しかし、今後地域の交流を残したいという意思で交流施設「おやまカフェ」を開店することになった。過疎の町で住民どおしの交流を図ることは依然として継続することになったことの意義は大きいと考える。

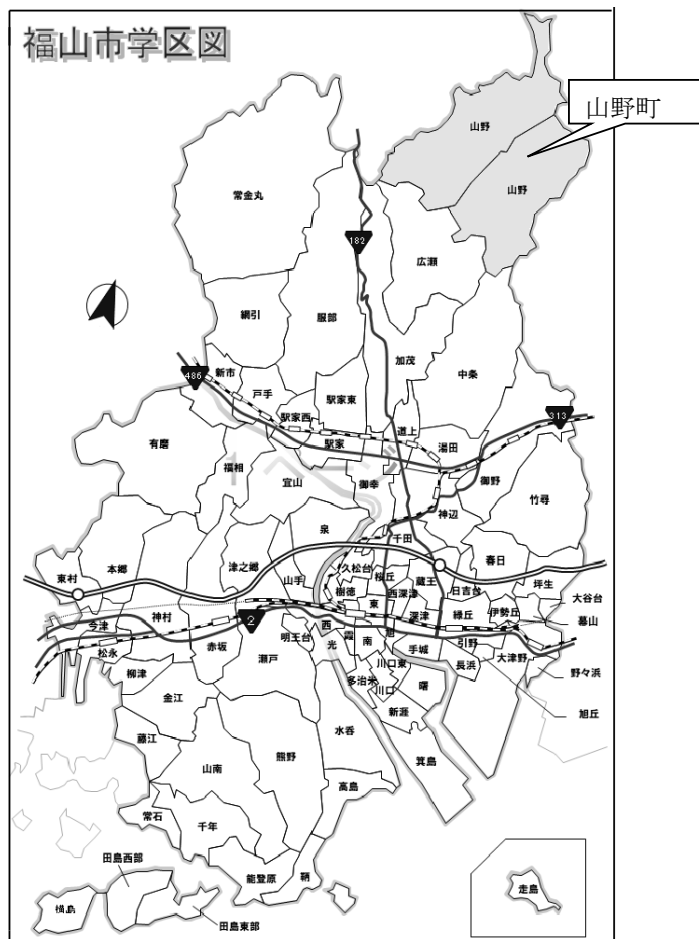
キーワード： キラリやまの 廃業 おやまカフェ

はじめに

平成 18 年 8 月に開店した広島県福山市山野町のスーパーマーケット「キラリやまの」（以下「キラリやまの」と称する）の閉店が平成 29 年 10 月に決定した。現在、福山市熊野町には同じような経緯で平成 24 年 7 月に住民主体の熊野ふれあい広場「クローバー」が誕生しているが、住民主体で立ち上げた「キラリやまの」が何故閉店したのか、その経緯、理由について調べてみたい。

図 1 福山市の町図一覧表

¹ 所属：福山大学経済学部 連絡先：084-936-2111



出典：福山市学区地図 www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls を参考に著者作成

第1章 広島県福山市山野町の「キラリやまの」の立ち上げ

1-1 広島県福山市山野町の現状

広島県福山市山野町は、福山市の北部に位置し、平成30年6月末で世帯数331戸（349戸 25年7月末）、人口638人（741人 25年7月末）の町である（平成30年9月末時点）。65歳以上の方は339人（360人 25年7月末）で、高齢化率（65歳以上）53.6%となっている。福山市の高齢化率平均27.7%より26ポイントも高く、高齢者が多く過疎化が進んでいる地域と言える²。

² 福山市HP：<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/johokanri/24115.html>

1-2 「キラリやまの」の設立経緯

「キラリやまの」の設立経緯は、小林正和（2007）³に詳しく書いているが、簡単に述べてみたい。

福山市山野地区の住民は、平成18年2月にJA福山市山野支店が廃止となることを聞き、平成18年3月にはJA福山市山野支店の女性部役員が中心となってボランティアで店の運営をしようと立ち上がる。その後、福山市主催の起業セミナーの受講、JA山野支店との協議、商品確保のための業者との協議、店舗の改築、補助金によるレジの購入、チラシの作成等多くの作業を行い、8月6日にスーパー「キラリやまの」（以下「キラリやまの」と称する）を開店をした。

1-3 「キラリやまの」の開店時から現在までの運営状況

図2 「キラリやまの」外観



出典：著者撮影

表1 「キラリやまの」の運営状況 比較表（平成18年開店から29年の閉店まで）

³ 「住民ボランティアによるスーパー立ち上げから学ぶ地域活性化の取り組みー「キラリやまの」開店のケースー」小林正和(2007)、『福山大学経済学論集』第32巻第1号、pp.139-153

地元住民によるスーパーマーケット「キラリやまの」の挫折

		平成18年（開店時）		平成25年		平成29年（閉店時）		
1 開店前準備	開店期日	平成18年8月		平成18年8月		平成18年8月		
	準備期間	5か月		5か月		5か月		
	きっかけ	J A福山市山野支店スーパーの閉鎖		J A福山市山野支店スーパーの閉鎖		J A福山市山野支店スーパーの閉鎖		
1 補助金	補助金	「福山市提案型まちづくり事業」100万円/1回 「ふくやまの魅力づくり事業」		「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間		「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間		
	他の助成	家賃	無料（J A福山市）	家賃	無料（J A福山市）	家賃	無料（J A福山市）	
	電気代	無料（中国電力）	電気代	無料（中国電力）	電気代	6万円/年（中国電力）		
	駐車場	無料	駐車場	無料	駐車場	無料		
	税理士費用	無料	税理士費用	36万円/年	税理士費用	36万円/年		
2 活動拠点・施設	施設の規模	施設面積	75m2	施設面積	75m2	施設面積	75m2	
	利用方法	店舗の時間	平日：9時～16時、土・日・祭日：休み （最初は平日9時～18時、 土・日は8時～12時）	店舗の時間	平日：9時～16時、土・日・祭日：休み （最初は平日9時～18時、 土・日は8時～12時）	店舗の時間	平日：9時～16時、土・日・祭日：休み （最初は平日9時～18時、 土・日は8時～12時）	
		定休日	なし（正月12/29～1/10）、 盆（8/14～17）（最初は毎週水曜日）	定休日	なし（正月12/29～1/10）、 土・日は8時～12時）	定休日	なし（正月12/29～1/10）、 土・日は8時～12時）	
	店舗の集客確保	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好群で近隣から注文多い 地元農家の地産品の販売	
		ふれあい広場	なし	なし	なし	なし	なし	
		事務局	「キラリやまの」の事務局 役割：店舗運営	「キラリやまの」の事務局 役割：店舗運営	「キラリやまの」の事務局 役割：店舗運営	「キラリやまの」の事務局 役割：店舗運営	「キラリやまの」の事務局 役割：店舗運営	
	3 利用者特性	売上等	売上	18万円/日	売上	10万円/日 ※創業より約120名程度亡くなる	売上	4～6万円/日（4年前の半分程度） ※創業から240～250名程度亡くなる
		地域住民数		956人（平成17年4月末）		741人（平成25年7月末）		638人（平成30年6月末）
	4 施設の運営・経営状況	運営状況	管理方法	地元女性会のボランティア	管理方法	地元女性会のボランティア	管理方法	地元女性会のボランティア
			管理者	門田美枝子代表以下5人（カギ当番）	管理者	門田美枝子代表以下5人（カギ当番）	管理者	門田美枝子代表以下5人（カギ当番）
		スタッフ	40人 300円/時間 平均年齢61歳、全員女性	スタッフ	25人 300円/時間 平均年齢68歳、全員女性	スタッフ	25人 300円/時間 平均年齢72歳、全員女性	
		レジ部門	レジ購入業者からの指導	レジ部門	自分達で実施	レジ部門	自分達で実施	
		商品の陳列、業者からの指導		商品の陳列、自分達で実施、視察等も行う		商品の陳列、自分達で実施、視察等も行う		
		商品の調達方法	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 卸業者からの仕入れ	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 卸業者からの仕入れ	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 卸業者からの仕入れ	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 卸業者からの仕入れ		
4 課題	経営・資金繰り	店舗・運営資金	自転車換業 スタッフは報酬300円/時 J A福山市の援助あり	店舗・運営資金	自転車換業 スタッフは報酬300円/時 J A福山市の援助あり	店舗・運営資金	自転車換業 スタッフは報酬300円/時 J A福山市の援助あり	
		商品	惣菜、弁当は非常に好群で売上を伸ばしたいが、人手が足りない	惣菜、弁当は非常に好群で売上を伸ばしたいが、人手が足りない	惣菜、弁当は非常に好群で売上を伸ばしたいが、人手が足りない	惣菜、弁当は非常に好群で売上を伸ばしたいが、人手が足りない		
		主催者、後継者	門田氏中心	門田氏中心	門田氏中心	高齢で後継者はいるが引き受けると言っていない。		

出典：福山市南部生涯学習センター（平成23年3月）「施設立上げまでの経緯について等」（平成25年3月）と門田氏インタビュー（平成30年5月）をもとに著作作成

平成18年開店から平成29年閉店までの約11年間に、開店前準備、補助金、活動拠点・施設、利用者特性等に分けて書いてみたところ、表1のようであった。変わっていないところもあるが、補助金、その他の助成、売上、集客方法などが大きく変わっており、今回の閉店に至ったものと思われる。

第2章 「キラリやまの」の閉店に至った理由

表2 「キラリやまの」の運営状況の変遷

	平成18年（開店時）		平成25年		平成29年（閉店時）	
補助金	「福山市提案型まちづくり事業」100万円/1回 「ふくやまの魅力づくり事業」		「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間		「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間	
他の助成	家賃	無料（JA福山市）	家賃	無料（JA福山市）	家賃	無料（JA福山市）
	電気代	無料（中国電力）	電気代	無料（中国電力）	電気代	6万円/年（中国電力）
	駐車場	無料	駐車場	無料	駐車場	無料
	税理士費用	無料	税理士費用	36万円/年	税理士費用	36万円/年
店舗の集客確保	高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好評で近隣から注文多い		高齢者への宅配：注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売： 好評で近隣から注文多い		高齢者への宅配：近年住民減少で売上減 スタッフによる惣菜、弁当販売： 近年住民減少で売上減	
売上・住民	売上	15万円/日	売上	10万円/日	売上	4～5万円/日（4年前の半分程度）
	地域住民数	956人（平成17年4月末）	地域住民数	741人（平成25年7月末） ※開店より約120人程度亡くなる	地域住民数	638人（平成30年6月） ※開店から240～250人程度亡くなる
運営状況	スタッフ	40人 300円/時間 平均年齢61歳、全員女性	スタッフ	25人 300円/時間 平均年齢68歳、全員女性	スタッフ	25人 300円/時間 平均年齢72歳、全員女性
	レジ部門	レジ購入業者からの指導	レジ部門	自分達で実施	レジ部門	自分達で実施
	商品の陳列、	業者からの指導	商品の陳列、	自分達で実施、視察等も行う	商品の陳列、	自分達で実施、視察等も行う
商品	惣菜、弁当は非常に好評で売上を伸ばしたいが、人手が足りない		惣菜、弁当は非常に好評で売上を伸ばしたいが、人手が足りない		惣菜、弁当の売上低迷	
主権者、後継者	門田氏中心		門田氏中心		高齢で後継者はいるが引き受けると言っていない	

出典：福山市南部生涯学習センター（平成23年3月）「施設立上げまでの経緯について等」（平成25年3月）と門田氏インタビュー（平成30年5月）をもとに著者作成

ここで「キラリやまの」の大きく変わったところをまとめたものが、表2の「キラリやまの」の運営状況の変遷である。これを見てみると、平成18年の開店から平成29年の閉店までの間で、多くの項目で厳しい内容になったことが挙げられる。

(1) 補助金

福山市の助成金は、開店時は1回だけの「福山市提案型まちづくり事業」があったが、その後「高齢者おでかけ支援事業」で毎年65万円の補助を受けている。

(2) 他の助成

他の助成としては、JA福山市から家賃無料、中国電力からは電気代を現在年間6万円を支払っているが、それまで無料であった。特に大きな金額で痛手だったのは税理士費用であり、当初は無料だったが、その後年間36万円を支払っている。

(3) 店舗の集客確保

高齢者への宅配やスタッフによる惣菜、弁当注文は開店当時は好評で注文が多かったが、近年住民の減少で売上が減少している。

(4) 売上・地域住民数

売上は、開店時は一日 12 万円だったものが、平成 25 年には一日 10 万円となり、最後には 4～5 万円とかなりの減少となった。

また地域住民数は、平成 17 年 4 月末では 956 人だったものが、閉店する平成 30 年 6 月末では 638 人と大幅に減少している。

(5) 運営状況

スタッフの人員は、開店時は約 40 人、その後 25 人で運営を行っていた。しかし平均年齢は毎年 1 歳ずつ上がっていき、72 歳と高齢となっていた。時給は少ないながらも時給 300 円を支払っていたが、ボランティアとしての活動が多いようであった。

(6) 商品

惣菜、弁当が当初好評で売り上げを伸ばしていたが、人手が足りないため多く作れないことや住民の減少により、近年は売上が低迷していた。

(7) 主催者、後継者

代表として門田氏が開店時から頑張っていたが、後継者を最後まで見つけることができなかった。一人いたが、どうしても引き受けてくれないと言っていた。

さらに、JA福山市山野支店の女性部の人達为中心であったが、最後まで男性や地域の協力を得ることができなかった。対照的に福山市熊野町の熊野ふれあい広場「クローバー」では、自治会連合会が主体で、公民館や小学校など地域全体の協力を得て実施している。

このような要因から「キラリやまの」は地域住民の減少や主催者の高齢化、後継者不足等により撤退を余儀なくされたと考える。

第 3 章 「キラリやまの」閉店後の取り組み

3-1 交流施設「おやまカフェ」の開店

門田氏とのインタビューで、この「キラリやまの」の後はどうにするのかと聞いたところ、「おやまカフェ」を開店したいとのことであった。開店理由は、「「キラリやまの」がなくなったら寂しい」「家に一人であるよりもお茶を飲んで話をして元気になりたい」というのが主な理由である。

店長は以前公民館に勤めていた笠原氏であり、スタッフは 16~17 人を予定している。このスタッフの多くは「キラリやまの」から引き継いでいる。

3-2 「おやまカフェ」の営業内容

営業日は毎月第 1~4 までの水曜日、営業時間は朝 9 時半から 11 時半までの午前中のみである。商品はコーヒー・紅茶のみを 1 回 100 円のみの販売であり、コーヒーメーカー、カップは会員が持ち込みを行っている。

将来は、野菜や加工品、総菜、山菜おこわを販売することも考えているという。さらに蕎麦の販売を 2 か月に 1 回はしたいという計画を立てている。

おわりに

地域の中でスーパーマーケットがなくなり、買い物をすることができなくなるという危機感から地元住民主体のスーパーマーケット「キラリやまの」ができたが、販売員の高齢化、後継者不足、地域の人口減少による売上減少等の多くの要因があり、閉店をせざるを得ない状況になった。

しかしながら福山市熊野町では、同じように J A スーパーがなくなるというきっかけから平成 24 年 7 月に住民主体の熊野ふれあい広場「クローバー」が誕生した。この熊野ふれあい広場「クローバー」は現在も継続しており、「キラリやまの」の違いは、主催者、後継者の問題が一番大きいと思われる。

「キラリやまの」は、J A 福山市山野支店の女性部員と門田氏個人のリーダーシップが主体だが、熊野ふれあい広場「クローバー」は自治会連合会が主体で、公民館や小学校など地域全体の協力を得て実施している。門田氏の後継者が最後まで決まらなかったことと運営者が高齢化したことが決定的ではなかったかと考える。

しかし、今後地域の交流を残したいという意思で「おやまカフェ」を開店することになった。スーパーマーケットの維持は難しかったが、過疎の町で住民どおしの交流を図ることは依然として継続することになったことの意義は大きいと考える。

引用・参考文献一覧表

- ・「住民ボランティアによるスーパー立ち上げから学ぶ地域活性化の取り組みー「キラリやまの」開店のケース」小林正和（2007）、『福山大学経済学論集』第32巻第1号、pp.139-153
- ・「地元住民によるスーパーマーケット立ち上げについてー広島県福山市熊野町「熊野ふれあい広場クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース」小林正和（2007）、『福山大学経済学論集』第39巻、pp.15-28
- ・「キラリやまの」の運営状況 比較表（平成18年開店から29年の閉店まで）
福山市南部生涯学習センター（平成23年3月）「施設立上げまでの経緯について等」（平成25年3月）と門田氏インタビュー（平成30年5月）をもとに著者作成
- ・中国新聞記事 平成30年1月28日
- ・福山市学区地図 www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls
を参考に著者作成
- ・福山市HP 人口統計
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/johokanri/24115.html>
- ・インタビュー キラリ山野代表「門田美枝子」氏 平成30年5月15日
- ・「キラリやまの」外観等写真 著者撮影 平成30年5月15日

Failure of “Kirari Yamano”-the supermarket by local inhabitants

Masakazu KOBAYASHI

“Kirari Yamano”-the supermarket by local inhabitants in Yamanocyo, Fukuyama-shi, Hiroshima opened in August,2008.However, it closed in October,2017.Because aging and the depopulation of local inhabitants advanced, and moreover, JA supermarket disappeared at last, the supermarket by local inhabitants opened. Why would it close this time? We may understand the reason if we examine the administration situation until closing it since opening of it.

We interviewed Monden who is the representative this time. He spoke the reasons that it closed. He answered that there were many factors caused by aging of salespersons, lack of successor and sales decrease by the population decline.

However, we will open interchange facilities “Oyama Café” for the intention that we want to leave local alternating current for in future. We think the significance of having still continued to plan the interchange between inhabitants in a depopulated town is big.